

UA神奈川学習センター ふゆだより

2003/1/1 発行

第6巻第1号(通巻21号)

目次:

特集

平成14年度 2
学生研修旅行
参加感想文

学生団体・サーク 5
ルのお知らせ

放送大学神奈川学習センター
〒 232-0061 横浜市南区大岡 2-31-1
TEL:045-710-1910
FAX:045-710-1914
<http://u-air.net/kanagawa/>
E-Mail:social@u-air.ac.jp



[イラスト:坂戸五葉]

特集

平成14年度学生研修旅行参加感想文

11月27日、平成14年度の学生研修旅行が行われた。学生・教職員合わせて41名で、熱海の「MOA美術館」と小田原の「神奈川県立生命の星・地球博物館」を訪れた。

赤松 孝子

秋晴の紅葉が美しい一日、MOA美術館と神奈川県立生命の星・地球博物館を見学しました。

MOA美術館では、予てから興味があった浮世絵が心に残りました。現世を注視する浮世絵は世の中のありさまを生き生きと写しとらえた絵画でした。それも江戸の町絵師によって庶民性あふれる風俗画として多くの人々に供されるため、江戸の生活はもとより、各地の名所絵から花鳥画、歴史画、風刺画、好色画に至るまで広範な題材を取り上げていました。特に、

江戸庶民の娯楽の中心として栄えた遊里と芝居に題材を取ったものが多く、美人画、人気役者を描いた役者絵は庶民の憧れの的であった様です。そんな事を考えながらも、優婉な女性美を無駄のない力強い描線で描いた「調髪美人図」の朱の色がいまでも心に焼きついています。

柳沢 明男

本年度の研修旅行に参加した。場所は熱海の「MOA美術館」と小田原の「神奈川県立生命の星・地球博物館」である。穏やかな日和に恵まれて、バスは横浜駅西口を出発した。途中、海の青さや山々の彩りが美しい。

まず、MOA美術館。国宝3点、重文64点を所蔵するこの館は熱海の海を見下ろす山の上にある。今「館20周年記念展」開催中である。仁清の国宝「色絵藤花文茶壺」をみる。また、重文「洋人奏楽図屏風」は桃山期の六曲一双の

屏風で、洋人が楽器を手に持っている。この絵について、笠原先生に解説して頂き大変有り難かった。バスの中では博物館などの利用の仕方についても教えて頂いた。特別展の中に広重の「木曾路の山川」があり、これは鳴門、金沢の三部作のひとつである。金沢の住民として、なぜか嬉しい。

昼食後は生命の星・地球博物館。平成7年に、横浜馬車道の県立歴史博物館の自然史部門が独立する形で誕生したそうである。室内に入ると展示物の大きさにまず圧倒される。また小さいものには目を凝らして見る昆虫などがあり、豊富な展示物は見学者を飽きさせない。地球の歴史を追うのも楽しい。履修した博物館関係の科目が思い出される。現在、県立金沢文庫で解説ボランティアをしているが、次の展示に関係する岩石の標本を

見ることが出来たので、解説に役立てるつもりである。

実物を見ることやその場所に立つことは、学ぶうえで大切な事だと思う。すべて有意義に過ごせたと思う。先生はじめ職員の皆様に心からお礼を申しあげたい。出来れば両館ともに主要展示品について、学芸員の展示解説をお願いしたい。

山口 須美子

思いっきりすばらしい晴天に恵まれました。久しぶりにバスの中から雪に覆われた美しい富士山をじっくり眺めながら、私達は美術館へ向かいました。

MOA美術館では、尾形光琳の「紅白梅図屏風」は見られませんでした。野々村仁清作「色絵藤花文茶壺」は思ったより小さかったのですが、鑑賞できました。絵画では浮世絵の美人画が多かったので、クロード・モ

ネの「睡蓮」やレンブラントの「自画像」などの数少ない油絵が印象に残りました。なお、異色のものとしては、16世紀末に描かれた「洋人奏楽図屏風」が展示されていました。遠景を淡い色彩で描く西欧式の色彩遠近法が使われ、男女が楽しそうに竖琴やマンドリンのような楽器を弾いたり会話をしたりしている憩いの風景が描かれた屏風です。

日本の優れた伝統文化を紹介する目的で建てられたこの美術館は、スペースも広く、高台にあり、眺めもよく、茶室や能楽堂もあるので、機会があったらもう一度ゆっくり訪れたいと思います。生命の星・地球博物館では、巨大な恐竜や動物などの剥製、隕石、蝶の標本、豆粒程の昆虫などが展示されていて、すべて興味のあるものばかりでした。

今度の研修場所はよい組合せだったと思いました。団体旅行だからダイジェスト版でよかったのだと思います。再度訪れたい人は個人的なペースでゆっくり行

けばよいと思います。

里見 絢子

笠原先生に同行をしていただき、MOA美術館で「洋人奏楽図屏風」を鑑賞することが出来ましたことを感謝しております。放送授業では、その折々に質問を行うことはできませんがあの日は特別でした。笠原先生も、放送授業とは違い、あれこれと、楽器のことは勿論、聖書に関すること、服装のこと、ぶどう酒作りのモデルや背景のことなど、多岐に亘り留まることがないくらいに、ご説明をしてくださいました。

私達といえば、これをチャンスと推測を交えた難問・奇問(?)を発して、先生との生の交流を楽しませて頂きました。他の所蔵品にも造詣深くいらして、私達が見落とす事がないように、所々でお声を掛けてく

(3 ページに続く)

平成14年度学生研修旅行参加感想文

特集

(2 ページから続く)

ださいましたので、限られた時間の中でしたが、効率良く見て廻る事が出来ました。また、生命の星・地球博物館では、「日本列島の地球科学」等の放送授業を担当なさいます濱田隆士先生の授業が、ビジュアルに展示されているようで、現在、受講中であることも手伝いまして、有意義な勉強をさせていただきました。濱田先生は、前館長でいらしたと伺っておりますから当然のことかもしれませんが、教科書のページが開かれているような思いで鑑賞させていただきました。

法律で同行が義務付けられているのかもしれませんが、許されるのでしたら、今回のように、親しみなれた地にまいります時には、経費の経済効果を高めるためにバスガイドの必要はないように思われました。

藤田 千恵子

車窓から富士山もくっきり見え、

よい天候に恵まれました。お陰様で一日大変楽しむ事が出来ました。以前から、一度はMOA美術館を訪れたいと思っていました。展示物もさることながら、茶室や能舞台まで備わった建物の見事さに圧倒されました。生命の星・地球博物館ではなかなか見ることのない貴重な多くの展示物を、興味深く見学させていただきました。

絵画を鑑賞し、隕石から世界の数多くの動植物や昆虫まで、間近かに眺める事が出来ました。恵まれたひとときを過ごさせて頂き感謝しております。日頃接触することのない仲間の方達とのふれあい、特に高齢者の方達の自己紹介で頑張っておられる様子を伺い、同じ世代にあるものとして励みとなりました。

バスの中で、展示物についての詳しい説明を聴かせて頂けるものと期待しておりましたが、事前に自分で調べておくべきだったと思いました。大変お世話になりました。

家田 礼

集合時間1時間前に着いてしまいました。時間を間違えたのです。晴天にめぐまれた山々の景色は、大きな額に収め飾りたくなるほどでした。

MOA美術館にて、“写楽”や野々村仁清の“色絵藤花文茶壺”、また日本人の心のふるさととも云える絵師歌川広重の名作“東海道五十三次”などを鑑賞しました。見事な構図と美しい色彩で、私を江戸の昔に引き戻してくれました。その他にも、とても参考になる絵が多く、時間の短かさに嫉妬しました。

“地球科学博物館”では、身近にある問題について、とても考えさせられました。環境問題、地球温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨の問題などのパネルを見学して、オゾンは地球から10～50キロの成層圏に分布していて、このオゾンが人体や生物に有害な紫外線を吸収していることを知りました。地球上からフロン類がバラまかれ、このオゾンを破壊してしまっているのです。人類は科学と云う武器を手にして地球を破壊してきましたが、私たちは循環社会を造ることによって地球再生を実現しなければならないと思いました。

二度目の研修でしたが、先生達の計らいでとても良い豊かな時間が持てたのは幸せで、とても贅沢に思いました。

村上 博子

今回で2回目、研修旅行の雰囲気になれてきました。前は気持ちにゆとりがなかったのか、なぜか落ち着かなかった気がします。

笠原先生が博物館の有意義な見方についてお話になり、とても参考になりました。特にミュージアム・ショップには貴重な参考資料があると指摘されましたが、私も必ず見て歩くところですので同感でした。

MOA美術館で今回展示しているものの図録があればと探して見ましたが、ジャンル別にわけられたものし

(4 ページに続く)



特集

平成14年度学生研修旅行参加感想文

(3 ページから続く)

がありませんでした。また、「洋人奏楽図屏風」の入っている本はないかと探してみますと、こちらも分割された絵はがきしかなくガッカリ。それではと思い、国宝の「手鏡 翰墨城」の入っている名品図録を買い求め、帰ってからは一切れの書を楽しみながら見えています。

美術館では見学に時間が取られ、決められた時間では十分鑑賞できなかったもので、再度来ることを心に決め、スケジュールにそって次の昼食会場へ。鈴広の蒲鉾は有名ですが、お土産には手作りわさびを選びました。

生命の星・地球博物館へ。ここは約一時間三十分の見学時間で、興味はあまりなかったので早々に見学を済ませました。授業の「日本の自然」を取っていたら、見学での見方がまた違ったのではないかと思います。ここも遠いところではないので、授業をとってからまた来てもいいかなと思ひ帰路につきました。午後になると大分疲れが出ましたが、一日充実した時間を送れたことは精神的に気分爽快。一緒に参加した方々の熱心な姿には刺激されました。次回の研修も期待しています。

同行いただいた笠原先生および事務局の方々にはお世話になりました。ありがとうございました。

秋谷 澄江

快晴に恵まれた相模湾の燦然とした水面と、海岸線を見え隠れする真白に化粧したおんな富士が鮮明に記憶に残る、最高の研修旅行日和でした。移動途中に、笠原助教授の御講義を拝聴致し、特別展示品の解説で「ピオラ・ダ・ガンバ」が私の興味を誘いました。

MOA美術館での楽しみは、美術の教科書によく掲載されている写真の「本物」に出会える事です。落ち着いた中に華やかで均整のとれた仁清の「色絵藤花文茶壺」。日本庭園がモ

デルとも謂われますクロード・モネの「睡蓮」。この作品は全体が明るい色調に纏められており嬉しい限りでした。(メトロポリタン美術館や、ボストン美術館でしたでしょうか？そこで出会った「睡蓮」は全体に薄暗い印象でした。)

そして、いよいよ特別展示コーナー。「洋人奏楽図屏風」には、古楽器「ピオラ・ダ・ガンバ」の絵が描かれています。既に16世紀の日本で、しかも日本人の手で、日本の自然のものを画材とした絵の具を使用されていた事は驚きでした。織田信長の時代背景を考えますと、日本に来日していた宣教師達の指導による宗教絵画の一部として描かれたのでは、と推察するのですが？

「生命の星・地球博物館」は、実は小学生の私の孫達が大好きなところです。来館すると一日中飽きずに居ります。世界の奇岩や奇石が、動植物が、自然の

中にこそある古代美の哲学を想い起させてくれます。

初めて参加させて頂きました。昼食も美味しく頂き、長いようで短かった充日した一日でした。教務係長の中野氏には、沢山の楽符を用意して頂きお心遣い有り難く、和やかな雰囲気の中、学友との交流を温める事ができました。素晴らしい企画を立てて頂きました。笠原先生、教務係長の中野様、教務係員の志藤様に感謝申し上げます。

木村 勝紀

今回初めて参加させて頂きました。MOA美術館も地球博物館も充分見応えがありました。ありがとうございました。

国宝小野道風直筆の書と、野生の狼の剥製が印象的でした。歴史上の人物との千年からの時間の隔りが、わずか15

(5 ページに続く)



平成14年度学生研修旅行参加感想文

特集

(4 ページから続く)

センチ四方の書一枚を前にして、瞬く間に同じ時間と空間にたたく錯覚に陥りました。その文字一字々が生き生きと眼前に迫りました。この一枚だけで有意義な一日となりました。また、自宅で犬を飼っているせいか、狼の剥製に目が行きました。獰猛なイメージの狼も飼犬の親類と思えば、眼は優しく、身体は大きく勇敢で親しみを感じたものです。かまぼこ博物館での粋なしつらえの試食は結構なものでした。自らの感受性はまだ衰えていないと感じました。この発見がまた別の意味で今回の研修での収穫でした。またの機会にも参加したいと思います。

当金 彦宏

放送大学に入学して三年になりま

すが、神奈川センターには単位認定試験や面接授業など、用事のある時しか行きませんでした。大学の雰囲気味わう為にも、もっと行く機会を作らねばと考え、人間学研究会に昨年末入会した訳です。たまたま、この例会の折、本研修会を知り、申込をさせていただきました。そんな訳で、上記の企画がこれほどされていたことを全く知りませんでした。今回参加して有意義であったことの第一は、普段知り合うことのできない学友と知り会え、車中や見学中に種々お話が出来たことです。第二は、同行いただいた笠原先生が、車中及びMOA美術館で適格なアドバイスやご説明をいただいたことです。特に、「洋人奏楽図屏風」については、先生の専門分野ということもあり、当時の日本やポルトガル、スペイン等の状況を詳しくご説明いた

だき、次々と話題が付きず、作品より離れ難い気持ちにさせられたことです。第三に、生命の星・地球博物館では、展示品を直接手に触れることが出来るなど、良い体験でした。

今回の研修旅行で良かった点は、専門の教員が同行し、適所で種々アドバイスしていただいたことにあると思います。次回、楽器博物館の企画を是非お願いしたい。また勝手なお願いですが、この楽器博物館へも笠原先生にご同行していただき、専門家としてのアドバイスをいただけるなら、より一層楽しいものになると期待しております。

塚田 典子

MOA美術館では、景色も良く、天気も良いので楽しい一日を過ご

すことができました。豊臣秀吉の茶室が純金の道具と金箔で素晴らしい限りでしたし、モネの絵も素敵でした。そして、浮世絵の作者に寄って絵図が違うのも興味深かったし、能楽堂もよかったです。小田原の鈴廣で食事をして、かまぼこ博物館ではかまぼこ板を使用した有名人の絵がとてもかわいかったです。手づくり体験もありました。神奈川県立生命の星・地球博物館では、大きな恐竜、地球の始まり、火山、神奈川のなりたちと動物の絶滅、地球の危機を感じました。もう少し、美術館をゆっくり見学したかったです。今日一日ありがとうございました。皆さまもぜひ参加してください。新しい友達の輪が増えます。

小林 隆平

美術館や博物館の類は、展示品を漫然と眺めて終わるだけでも、私に

はいつも「何か」特別なものを心に残してくれる。今回の研修旅行で訪れたMOA美術館と県立生命の星・地球博物館の見学でも、その例にみれず一巻の名作を読み終えた、あるいはバッハのチェロ音楽に聞き入った後のような、具体的には名状し難いが、「何か」が心に残された感じがする。

MOA美術館で、はからずも手鑑「翰墨城」を眼に出来たことは、全くの素人、門外漢の私にも衝撃的であった。昔人の息遣いを身近に感じる縁となった。

見学先へ向かうバス車中で伺った笠原先生の美術館利用法ヒントは非常に有難かった。今後はより目的意識を持った美術館めぐりにしたいと思う。

生命の星・地球博物館では易しい説明と、展示品に手を触れることが

できるという隔てのない展示方法に感心したが、本学の濱田教授が館長をなさっておられたと知って、放送授業で接したあの丁寧で優しい語り口から、さもありませんと改めて感じ入った次第である。

出来れば20～30分でも、参加メンバーが顔をあわせて一堂で意見交換出来る場がとれればありがたいと思う。

渡辺 新一

新しい発見が常に待受ける研修旅行は、次回を期待させ、楽しさ一杯に膨む校外授業であり、私の気持ちを充実させるに充分な一日であります。

今回MOA美術館と、生命の星・地球博物館での私の有意義な発見を、列挙させて戴きます。第一に、

(6 ページに続く)

特集

平成14年度学生研修旅行参加感想文

(5 ページから続く)

眩しい程の輝きを持つ「黄金の茶室」で、後にも先にも一度の茶会が高円宮と裏千家家元で行われたことを、ガイドさんが私の質問に答えて教えてくれたこと。第二に、産業と技術の専攻生として感激したことは、浮世絵鑑賞、美人画の衣装「江戸小紋」が新宿落合に現在も80軒を超す染屋さんが頑張っていること、伝統を守り新しい技術を使って程々の製品と販路を現在でも拡大している事実。第三に、国宝3点、重要文化財64点を含む3,500点余の中で、重文「洋人奏楽図屏風」絵が桃山時代に鮮やかに描かれ、それに関係して当時の日本人が西洋楽器、音楽を受入れたことを知ったこと。そして第四に、生命の星・地球博物館は神奈川県下にミュージアム300余の中でも自然を知る最大級の博物館であり、学術書も多く、論文作成と研究に良い知識を得られると、学芸員が話をなされたこと。

車中における先生の予備知識を含むお話は重要で、最近の研修旅行には必ず行われています。今後もつづけて実証をお願いします。

町田 昭

往路のバスのなかで、笠原助教授から研修旅行についての情報提供が行われました。ご自身の経験を交えて「ミュージアム・ショップの活用」についてのアドバイスがありました。図録など一般では得難いものを発見できるチャンスがあるというお話でした。

生命の星・地球博物館では、同博物館編になる『かながわの自然(昆虫)』を発見し、かねてから身近な昆虫図鑑が欲しいと思っていたので早速求めました。たまたまその巻頭に本学の濱田教授の“あいさつ”が掲載されていました。要約すれば、「近代化が進むと引きかえに自然が急速に遠く…効率とか手近かなアメニティ追求が身の周りにあふれはじめて来た…自然保護のはき違えから昆虫採集や解剖を拒否する教師が出て来たりして”生き物”学習に必須なハンズ・オン体験が追い出される羽目になった…しかし昆虫は不滅で

あり、自然の豊かさ、多様性の高さ、驚異的な体の造り、デリケートなアート性など決して失ってはいない」と述べられていました。同感です。

旧制中学生の頃「昆虫採集」に夢中になった経験があるので、博物館の貴重な展示物は見事で貴重なものばかりで十分見応えがありました。特に、南米や東南アジア産の昆虫の標本には釘付けになってしまいました。教授のご指摘のように、昆虫の体の造りや特にあのメタリックに輝く蝶や甲虫のアート性に強くひかれました。

今回求めた小図鑑は座右の書として生涯の友になることでしょうか。貴重な機会を下さりに難うございました。

堀籠 悦子

私にとって二度目になる研修旅行でしたが、今回もまた楽しく有意義な一日を過ごすことができました。

MOA美術館では、笠原先生の後にいつもついて周り、絵や書について直に

解説して頂くことができました。

また、地球博物館では「生命の星」について考えさせられました。「地球のあした」というコーナーで、「人口増加1秒3人」「熱帯林消失速度一時間1929ha = 神奈川県が、5日で消失」「砂漠化速度1時間690ha = 神奈川県が15日で消失」といった具体的な数値をあげての問題提起があり、驚愕のため暫く動けませんでした。

発展途上国の人口増が更に貧困を生むという経済的危機を知らせるニュースが流れ、一方で、地球上に絶えない戦争のニュースがあり、生命・自然破壊がくり返されています。「地球は青かった」という宇宙飛行士の声を私たち世代は感動を持って聞くことができました。美しい地球を私達の子孫にも自慢させてあげたいと思っていますが、そのためには何を行えば良いのか、ということを考えさせられた研修旅行でした。



学生団体・サークルのお知らせ

うえるかむKanagawa

“うえるかむKanagawa”は神奈川学習センターに所属する学生のための英会話グループです。

- *英会話を何年も学習したが話せない
- *以前は話せたがすっかり錆びついてしまった
- *もっと実際に役立つ実力を身につけたい

このような学生のために私達は月二回学習会を開いています。

午前中はカナダ人の若い先生Sarahを迎へ初級、中級に分かれてカナダやアメリカの事等free talking を楽しみながら学習しています。

午後は自主学習で、初級はラジオ基礎英会話 やGATEWAYSをテキストに、中級は英字新聞等を利用し興味あるニュース、トピックについて自由討議を行っています。海外ビジネスで実践英会話を身につけた方々もメンバーにおり練習台に利用できますから一度覗いてみませんか。午前又は午後どちらか一方の参加でもかまいません。

例会 毎月第2、第4水曜日

AM10:00~11:00

Sarahクラス 中級

AM 11:00~12:00

Sarahクラス 初級

PM13:00~15:00

グループ学習

“うえるかむKanagawa”の母体である“うえるかむ”の行事は年に4~5回行っています。休日だけ、又1年に1度しか出席できない人達も集り、各支部合同で親睦を深めています。海外のオープン・ユニバーシティを訪問したり昨年11月には磐梯国立青年の家で天文の集いを持ち、月や流星群の観測を楽しみました。皆様も是非お仲間になりませんか。

*サークル参加ご希望の方は下記へお問い合わせ下さい。

野末: 044-287-0270

遠山: 045-931-0082

(遠山記)

人間学研究会

【例会】

- 1月12日(日)「謡曲を聴く」
- 2月22日(土)「一年間修士課程に学んでの体験談」(見学不可)
- 3月16日(日) 総会(見学不可)

例会は、午後1時00分から神奈川学習センターの講義室にて行います。卒業研究の発表、ワークショップ、講演会などの内容です。1月の例会は、見学ができます。2月、3月は、入会者のみ参加できます。

(日程は、変更される場合があります。)

「あきだより」に掲載した、2月の例会の日程が変更になっています。このほか、例会前にキャンパス・ネットワークの講習会を行う場合があります。

例会および人間学研究会全般についてのお問い合わせは、
Tel: 044-355-3865高橋まで。

【歩きましょう】

- 1月 1日(祝)「元旦ウォーク」
- 1月18日(土)「幕山ハイキング」
- 2月 8日(土)「真冬の陣場山ハイキング」
- 3月29~30日「第22回(最終回)おくのほそ道を歩く(木ノ本~大垣)」
- 4月12日(土)「三ツ峰山ハイキング」

4月以降も、登山、ハイキング、歴史散歩などを計画中です。「歩きましょう」についてのお問い合わせは、

Tel: 0468-41-7937 大出

Tel: 0466-37-0191 鈴木 まで。

【歩きましょう海外遠征】

「キナバル山・ゴマントンケープ・キナバタンガン川クルーズを楽しむ旅」3月17日(月)~3月23日(日)

カリマンタン(ボルネオ島)北部の熱帯地域です。富士山に登れる体力があれば、登頂可能と言われています。登山道では、雨期が終わって、一斉に熱帯地方の花が咲く光景を見られるでしょう。

- 17日 成田発(コキタナバル泊)
- 18日 キナバル国立公園散策(キナバル泊)
- 19日 キナバル登山(山小屋泊)
- 20日 キナバル山(ローズピーク4,095m)登頂(コキタナバル泊)
- 21日 ゴマントン(洞窟)見学 キナバタンガン川クルーズ(スカウ泊)
- 22日 スカウ発乗り継ぎして成田へ(機内泊)
- 23日 成田着

申し込み、問い合わせは、上記の 大出まで、1月末日締め切りです。
(費用は、20万円弱の見込みです。)

神奈川放友会

10月には20名の新会員を迎えて会員相互の交流の輪を拡げて親睦を図り、学習を援助するサークル活動を行っています。

行楽と研修を兼ねた旅行

一泊研修(大学本部・Museum等)

旅にいこう会(行楽・名所旧跡等)

学習履歴表に依る情報交換

会員相互の研究発表

パソコン初心者講習と清風亭ネットの会

学習履歴表と清風亭ネットの会は放友会の目玉商品として会員から高い評価を得ています。

清風亭ネットの会はネット上の会話とイベントを楽しむと共に会員相互のパソコンの得意技の情報交換を通じてパソコンの腕を磨いています。

放送大学での学生生活をより一層充実させ交流の輪を拡げたい方の入会をお待ちしています。

行事予定(1月~6月)

2月23日(日) 2月旅にいこう会

3月16日(日) 例会 翌年度の計画等

4月上旬 新会員勧誘、歓迎会

4月下旬 15年度総会、月例会

5月下旬 月例会情報交換研究発表

6月中旬 6月旅にいこう会

清風亭ネットの会でも別途スケジュールで

イベントを実施しています。

照会/入会申込先

〒251-0025

藤沢市鶴沼石上1-13-13-506

芝崎 芳和

Tel/Fax 0466-25-0090

E-Mail shibasun@gray.plala.or.jp

神奈川放友会活動報告

鎌倉歴史散策(鎌倉新巡礼をゆく)

平成14年10月20日(日)

参加者 12名 幹事 田嶋早苗

石川守 王丸文八 岡本興和 奥隅廣介

菊池智 木下義則 芝崎芳和 八木秀夫

横山幸子 吉田昭二 脇田貞次郎

コース 鎌倉駅 頼朝の墓 大江広元

の墓 荏柄天神 鎌倉宮 護良親王の墓 杉本観音 華頂宮別邸 (昼食) 報国寺 釈迦堂口切り通し 長勝寺 元八幡宮 鎌倉駅 (事務局記)

「明日の日曜日は一日雨でしょう」大きな傘マークが神奈川県の上にドーンと乗っかり、気象予報士さんも厳かにご託宣。そのような10月20日、総勢12名全員の普段の良い行いのせい、良い勉強のせい、一粒の雨にも遭うことなく、鎌倉在住で裏道にも詳しいリーダーの下、鎌倉の穴場を歩いてきました。

源頼朝・大江広元・護良親王の墓巡りからスタート。お墓は訪れる人も少ない、落ち葉に埋もれそうな急階段を登った所にありました。その昔の権力者達の活躍とは裏腹に、ひっそりと眠る地でした。

荏柄神社には、ギンナンを沢山つけた大イチョウがあり、静かに佇み訪れる人を眺めているかの様子です。

楽しいランチは、「華頂宮別邸」庭内で食べました。第2次大戦中迄なら立ち入ることさえ叶わないお屋敷で、敷地広々の明治の洋館(と思う)は、軒も高く優雅な姿を保っています。高貴な人々がどんなにか華やかに暮らしていたであろう事かと想像を巡らせながら、私はコンビニで調達したサンドイッチをパクついたのでありました。(横山 幸子記)

華頂宮別邸にての昼食後庭園を一巡りして、この建築物は古都鎌倉にはそぐわない・・・明治村の方がピタット当てはまるのでは?・・・などと考えているうちに、竹の寺で有名な報国寺に到着。

正面に本堂、茅葺き屋根の梵鐘を左手に、裏庭にまわると、そびえ立つ竹林が迎えてくれた。その中を通り奥の茶席から振り返ると、竹竹竹で石像や背景は目に入らず、「とにかく竹を見てください」と言わんばかりのストレートな有り様にしばしみとれる。

山門をでると、車止めに人力車が2台。風情を感じながら、報国寺を後に長勝寺に向かう。途上釈迦堂切通しを抜けたが、機械力のない昔に人力で巨岩をくり抜いた姿に思いをはせ、その努力と景観に感嘆!(落石注意通行止めの立て札を素通りのスリルを味わいながら)・・・

長勝寺の門を入ると、高村光雲作の日蓮上人像が目に入り、どこかで見た顔に似ていると思いつつも思い出せず。(後で調べると上野の西郷さんも高村光雲作とのことで納得)

それから元八幡を巡り、色々と考え

させられました。夢窓国師の「山水は得失なし得失は人の心にあり」の言葉を改めて考えさせられ、久しく忘れられていた脳細胞の一部がうごめき始めたような記念すべき一日でした。

最後に、このような機会を与えてくださった幹事さんを始め役員の方々、会員の方々、本当に有り難うございました。(王丸 文八 記)

放送大学同窓会

【連合会便り】

放送大学と同窓会との懇談会開催
平成14年12月2日(金)本学本部において丹保学長、麻生副学長、他、大学本部関係者11名と同窓会(連合会役員)との懇談会が実施された。

放送大学の現況及び今後の展開

- 全国化推進の結果、学生数 103,000名 卒業生 23,000名になる。最高齢の卒業生は94歳
- 平成15年10月より新たな学校法人としてスタートする。
- 第1期大学院全科履修生の入学者は本学卒業生が3割、他大学が7割となった。
- 面接授業については現状93単位以上取得者で卒業を目指す学生の優先順位が高くなっているが、今後履修希望の多い科目については増やしていく方向で検討中。
- 大学院科目履修生の履修期間について、現状の1期(半年)を延長していく方向で検討中。
- 同窓会ホームページへのリンクを、本学公式ホームページに掲載できる方向で検討中。

UA神奈川学習センター ふゆだより編集部

発行者：神代和俊

編集者：五十嵐、遠藤、星、加藤、松本、皆川、吉田、村山、石川、坂井

- ・坂戸五葉さんにイラストを描いていただきました。ご協力に感謝いたします。
- ・また、今回エッセイやお知らせなどの投稿がありました。学生研修旅行特集が予想以上に紙幅を多く使いましたので、次回以降に回させていただきます。悪しからずご了承ください。

次回、神奈川学習センター「はる」だよりの特集テーマは、「卒業に想うこと」です。学生の方々の原稿を募集いたします。1200字程度にまとめて3月上旬までに、E-Mailで、あるいはセンター窓口までお寄せください。「放送大学についてのエッセイ」も常時受け付けます。また、「書評」「読後感想文」も400字程度でお願いいたします。奮ってご応募ください。

○平成14年度卒業式・卒業祝賀会について

開催日 3月16日(日)
卒業式 浦安市舞浜NKホール
祝賀会 東京ベイヒルトンホテル(連合会主催)

【映画のお話と

鑑賞会のお知らせ】

- 1 お話 : 「映画の世界」～楽しいですね映画は!～懐かしい名画や最近の映画から人生模様あれこれをお話下します。
- 2 映画鑑賞: 「クラディエーター」2000年アメリカ映画
監督 巨匠 リドリー・スコット
主演 ラッセル・クロ
- 3 日時 場所: 平成15年2月23日(日)13:00～16:30
学習センター第8講義室
- 4 講師: 横浜映画研究会会員 西浦久晏氏(放大同窓生)

問合せ先

大花 0468-66-2195

佐々木 045-472-6482

